

社会福祉法人芳香会 会報誌

せいらんそう

第47号

2020.4



事業所トピックス 牛ヶ谷保育園より (P6掲載)

Contents

- P 2 社会福祉法人芳香会50周年 更なる役割
- P 3 芳香会 ロボット紹介
- P 4 長いお付き合い
- P 5 地域生活定着支援事業の新たな展開
- P 6・7 施設・事業所トピックス
- P 8 芳香会活動報告
芳香会スケジュール
編集後記



事業所トピックス 青嵐荘養護老人ホームより (P6掲載)

2019年10月台風第19号において被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、
当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

芳香会五十周年 更なる役割

『理事長就任十二年目を迎えて』

青風荘養護老人ホーム 根本施設長

芳香会病院青風荘療育園 窪副施設長

私は平成二十年六月期に理事長に就任致しました。この間の法人内の大きな実践内容を改めて振り返り、今後の運営内容と方法について再考します。

第一に、茨城県地域生活定着支援センターの受託開始についてです。今年度で、受託開始十年目を迎えます。司法福祉の実践は、かなり難しく相談員も手探り状態からのスタートでした。この事業を受託し、法人内全体での関わりとなり、対象者への支援取り組みにも進展しました。

第二に、新しい形態の保育を模索し変革しました。目標は子どもたちの体と心作りの関わりです。職員とともに学習し、入念な準備と時間を費やしました。原点は子どもの権利条約です。そのことを現在の見守る保育の形で実践し続けています。

第三に、養護老人ホームの改革です。措置形態の施設では、措置による新しい入所者が増えず常に赤字経営が続きました。その為に新たな施設運営を開始しました。

第四に、イノベーション委員会を立ち上げ、様々なロボットの導入や腰痛予防機器等を使用開始した事です。そして委員会を中心に多くの施設で業務改善や工夫を凝らすことが可能となりました。

これらの大きな事柄を職員とともに、実践できた事は私にとっても良い体験となりました。今後も様々な運営の仕方と地域に役立つ社会福祉法人として邁進して行きます。(宇留野)

養護老人ホームは老人福祉法に基づく措置施設として様々な事情や背景を抱え、社会的にも恵まれない方々の生活を支えるセーフティーネット機能を有するという基本的な役割は現在も変わりはありません。

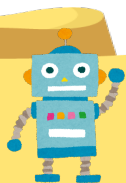
しかし、当施設では平成二十九年度に入所定員を四十名に減少したことでの役割には少し変化がみられてきました。定員減少により空床となった十床分を契約に基づく「独自入所事業」として活用を始めました。これは老人福祉法に基づく措置入所の要件から外れてしまう方や様々な福祉制度の「狭間」に位置するため必要な支援を受けることが困難な方などを対象とした事業です。高齢者だけでなく、派遣切りで就労が継続できず車上生活に陥ってしまった若い年齢層の方なども利用されており、一時的に安心して過ごせる場所を提供することで生活を立て直し、新たな生活へ移行する一助となっています。

様々な制度があり、支援の手につながる方がいる一方で、現行制度の支援にはつながりにくい方もいるという現状をこの事業を通して目の当たりにします。

社会福祉法人が運営する養護老人ホームとして高齢者の支援だけではなく、“制度の狭間にいる方への支援”を担っていくことも、これからの私たちに求められる役割なのだと考えます。(根本)

芳香会の五〇年、私の一言で表現するならばやはり“共に生きる”をいつの時代も寸分の狂いなく事業として行ってきたことだと思っています。様々な時代背景に影響を受けながら、先人達は社会的ニーズを抱えた方々の生きる支えを芳香会の核として実践してこられたのだと思います。

芳香会のこれからの五十年、社会的ニーズの背景や要因は違えど共に生きるが事業活動の中心であることは揺るがないだろうと推測します。加えて芳香会が地域の中で必要とされ新たな社会福祉法人としての役割を担うためにさらに取り組まなければならないことは、“先行予防型福祉事業”の展開とそれを実践する人材の育成ではないかと考えます。特にこれからの日本の最重要課題「子供を産み育てやすい社会作り」と、対極にある高齢者の「役割と終活」の施策や事業に、先行予防的事業として積極的に取り組み、あらたな役割を見出すこと、そしてそれらの事業を地域でより専門的に実践し、人々の幸福に寄り添う支援ができる質の高いランドソーシャルワーカーをいつの時代にも作り出すこと、芳香会が次代で担う大きな役割になるのではないかと今からワクワクしています。(窪)



芳香会 ロボット&腰痛予防機器紹介

掃除のお手伝い



ルンバ(療護園)



WINBOT(療護園)



ケルヒャー床洗浄機(療護園)



電動運搬機(療護園)

腰痛予防



免荷式リフト「POPO」
(つくし園)



スマートスーツ (療育園)



HAL (特養)



マッスルスーツ (特養)

環境対策



スマートクロック
(特養・療育園・ケア・法人)



パルロ(結城デイ)

癒しのロボット



AIBO(落のとう舎)



パロ
(落のとう舎・つくし園)

介護のお手伝い



コギー(つくし園)



つるべー(療護園)

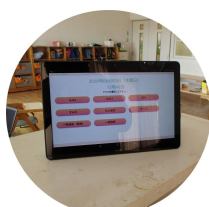


リフト「マイティライトⅢ」
(ケア)



ラグーナ (療護園)

事務処理のお手伝い



入退園管理タブレット
(たま保育園・牛ヶ谷保育園)



ICカードリーダー(全施設)

芳香会では多種多様な機器の手助けを受け、日々の業務にあたっています。今号では各施設に導入している機器の一部をご紹介します。今後はもっと多くのAIの力を借りて福祉サービスを提供していければと考えております。



長いお付き合

古河三高スプリングコンサート

ご療護園

五年前の十二月、芳香会の周年記念のオーブニング演奏を依頼されたのが始まりでした。以来すっかり意気投合し、今年で五回目になる三月のスプリングコンサートは、残念ながら感染症の影響から中止となりましたが、スプリングコンサートは古河三高吹奏楽部にとって欠かせない大切な行事となりました。改めて御礼申し上げます。

療護園に初めてお伺いしたとき、フラットながら陽の差し込む明るく広々としたよく響くホールさながらの会場に、部員一同感激したことを覚えています。ノリのよいポップスを中心に、時には演歌やしっとりとしたバラードなども織り交ぜてステージを作ってきました。歌やダンスも取り入れ、第二回コンサートからは備え付けのピアノもお借りして混声三部合唱にもチャレンジしています。

毎回、ご利用者や職員の方々の笑顔、拍手に励まされてきました。「楽しみだよ。」「よかったですよ。」「来年も来てね。」「と、お客様の反応がすぐ

に伝わってくる演奏会の楽しさを部員たちも実感しています。観ている方々に喜んでもらえるよう互いに意見を出し合い試行錯誤し練習を重ねていくことで、生徒達も一回りも二回りも成長してきました。

（古河第三高等学校
杉田先生）



古河中等教育学校福祉セミナー

去る平成三十一年三月二日（土）、医療・福祉関係の学校への進学を考えている生徒達を対象に、福祉セミナーが開催されました。様々な分野において体験学習のプログラムを設定していただき、生徒達は大変貴重な体験をさせていただくことができました。

栄養士体験では、実際に献立を立て、その難しさを実感していました。看護師体験では様々な障がいを持った方に実際にお世話するお手伝いを体験させていただくことで、その難しさを認識し、ご利用者の方の反応を直接に感じることができました。理学療法士体験では生徒達自身がご利用者と職員になり、互いの立場でリハビリテーションを体験することができました。

また、全体会では実際に医療活動やリハビリテーションに使用されている機器に触れたり、柔らかく加工された食品を実際に食べてみたりすることで、ご利用者の方の気持ちに少しでも近づき、将来医療・福祉系の仕事に活かすことのできる貴重な体験をさせていただくことができました。生徒達には今後の一層勉学に励み、この日の学習を将来の仕事に活かし、活躍してほしいと願っております。

職員の皆様、そしてご利用者の方々には、お忙しいところ当日はもうろん準備から多くのお時間を割いていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

（古河中等教育学校
水川先生）



茨城県立医療大地域学療法学実習

二十年のお付き合い

十一月二十八日、十二月四日の二日に渡り、茨城県立医療大学理学療法学科三年生の地域理学療法学実習をお受けしました。学生さんからの様々な感想をいただきました。

施設内はご利用者の安全を守るために様々な工夫がなされており、特に印象的だったのは廊下に物がほとんど置かれていなかったことだ。大きな物ならば問題はないが、口に入れられるくらいの物を不用意に置くと、異食につながるリスクがあったり、投げたりしてしまうことがあるので、必要最低限の物以外は置かないとのことだった。（K・I様）

介護職員の環境を整えることはとても重要であると感じた。介護も間違った方法だと、介護者の身体にかかる負担が大きく、腰痛などのリスクが増えてしまう。さらにご利用者のストレス増大や、事故のリスクも増えてくる可能性がある。（F・M様）

今の介護保険制度が定められる前、ご利用者はサービスの施設を選ぶことができなかったため、自分の地域とは関係のない場所の施設になることもあったと聞き驚いた。そのため、今の地域に密着したサービスはご利用者にとって、とても安心できるサービスだと改めて思った。（K・T様）

・地域理学療法で一番困難だと感じているのは、地域に対して理学療法士の活動をどのように知ってもらって、サービスを利用していただくかだと今回の実習に参加し、改めて考えさせられた。（A・O様）

（結城児童指導員）



地域生活定着支援事業の新たな展開

『地域生活定着促進事業と「ラボ」シム』

茨城県地域生活定着支援センターは、福祉的ニーズのある罪を犯した高齢者や障害者を支援する事業所です。

二〇一〇年十一月に茨城県から委託を受け、これまで約一七〇名におよぶ対象者の支援をさせていただきましたが、この間、県内の行政機関、福祉施設・事業所を始め、本当に多くの方々のご協力をいただきながら、事業を運営してきました。

今回は、これまで事業運営にご協力いただいた多くの方々の中から、早稲田大学大学院日本語教育研究科・宮崎里司教授と、社会福祉法人茨城県社会福祉事業団・飯島隆明係長に寄稿していただきました。

宮崎教授は、矯正施設において増加する外国人入所者が、矯正施設における処遇や社会生活における更生の場面での最大の障壁が「言葉の壁」であることに着目し、十年以上の長きにわたり外国人入所者に対する日本語教育を行っております。外国人が社会の中で生きにくさを抱え、犯罪に至ってしまう状況を変えていくという実践から、私たちはたくさんの方のことを学ばせていただいております。

飯島係長は、二〇一九年七月に茨城県社会福祉事業団内に創設された茨城県地域生活定着支援センター分室の相談員を担っていただいております。これまで障害者分野でのソーシャルワーカーとしての経験を有し、私たちと協同していただいております。

このように、たくさんの方々と連携しながら成り立っている事業です。今後も皆さんのご協力を得ながら、事業を運営していきたいと思えます。よろしくお願ひ致します。（酒寄）

『矯正施設における日本語教育を通じて』

『地域生活定着支援センターに求めるもの』

地域生活定着支援センターは、高齢や障害のため釈放後、福祉サービスを受ける必要があるものの、それが困難な状況に置かれている方にとって、重要な役割を果たしていると理解しています。私は、これまで、F指標と呼ばれる、外国人被収容者の刑務作業や矯正教育、ならびに、社会復帰をめざす上で必要なスキルを修得するための日本語教育の支援に取り組み、法務教官などとの連携を図ってきました。

こうした社会実践とは別に、公立中学校夜間学級（夜間中学）で学ぶ、外国人生徒の日本語学習支援にも携わっています。現在夜間中学では、中高年日本人、在日韓国・朝鮮人、元不登校・ひきこもりの若者、そして、仕事や国際結婚等で来日した外国人やその家族、さらには、アジア・アフリカからの難民や無戸籍の若者も在籍しています。

上記のような取り組みの共通点は、社会適応の必要性があるものの、なかなか届かない、いわゆる「アウトリーチ型」の人々に対する支援だと言えます。そして、そのような人々への言語教育サービスは、社会のセーフティネットにつながり、日本人や日本社会にも共益性があると言えます。

こうした捉え方は、二〇一五年国際連合で採択された、人間、地球及び繁栄のための行動計画としてのSDGs（Sustainable Development Goals）が大きく影響しています。その中で、教育は、目標四「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」に掲げられています。アウトリーチへのソフトインフラの整備は、地域生活定着促進事業における持続可能な主業務になっていくと思われれます。

（早稲田大学大学院 宮崎教授）

『茨城県地域生活定着支援センター分室について』

社会福祉法人茨城県社会福祉事業団は、法人の垣根を超えた事業連携の取組の一環として、社会福祉法人芳香会様から茨城県地域生活定着支援センターの一部業務を受託することとなりました。私は、担当として昨年四月から六月にかけて三か月間、分室開設のための研修や業務引継ぎを行い、同年七月から県北・県央を担当する茨城県地域生活定着支援センター分室としての事業を開始しました。

これまでのケース記録を読み進め、業務に取り組んでいくなか率直に感じたことは、想像以上の業務の困難さでした。高齢や障害による、ちよつとしたきつかけから道を誤り、矯正施設に入所された方たちのやり直しの機会を理解し、提供していただける場が、まだまだ少ないと強く感じました。一方、事業開始当初から現在に至るまで業務に関わってこられた先輩方の丁寧かつ粘り強い対応と、その結果築かれてきた信頼関係があり、さらに、この困難な業務を遂行するために、自立準備ホーム登録による法人全体でのバックアップ体制を構築されるなど、これまでの芳香会の皆様のご尽力に対し心から敬意を表します。

社会福祉法人芳香会様が長い年月をかけて積み上げてきたものには及びませんが、今後も努力と研鑽を重ね、事業の一翼を担っていただけるようになりたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

（定着分室 飯島相談員）

「継続は力なり」

青風荘養護老人ホーム

養護老人ホームでは、ペットボトルのリサイクル活動や紙パックをリサイクルする紙すき活動を余暇活動として取り組んでいます。どちらの活動も本格的に取り組みを始めてから気づけば二年が経過しました。現在に至るまで活動を継続することができたのは、少しずつ変化をしながら活動に取り組んできた成果なのだと思います。どちらの活動にも共通しているのは、入所者の変化に応じて作業工程を工夫し、参加する人数を維持することができたという点です。

活動を開始した当時は最初から最後まで工程を元気な入所者のみで行っていました。それはそれで活気もありましたが、加齢や体調不良などの理由で徐々に活動から離れていく方もおり、活動の継続自体が危ぶまれた時期もありました。そこで作業工程を細分化することで、負担軽減と参加者の能力に応じて活動できるように仕



組みを作ることによって参加人数を維持することができました。現在では活動に参加する方が増えただけでなく、ボランティアの学生や保育園児との交流会におけるコミュニケーションツールとしても活用することができるようになり「継続は力なり」を具現化することができました。何事も継続していくためには工夫や変化が必要です。現状に甘んじることなく「変化しつづける」という視点を意識しながら、これからの活動や業務に反映していきたいと思っています。(根本)



「家族介護者交流会『すまいる』」

結城市地域包括支援センター南分室

結城市では、介護しているご家族の支援として家族介護者交流会を開催しています。目的は、介護の悩みや方法等を話し合い、介護者同士の交流を通し心身のリフレッシュを図るものです。五月から翌年二月まで毎月一回、計十回開催しており、実施主体は結城市地域包括支援センター南分室、結城市在宅介護相談センターたけだヒューマンハウスの三センターです。交流会では私たち相談員以外に、介護を終えた方に協力者として同席いただきます。これは、少しでも参加される方が話しやすいようにという理由からです。参加される方の話から、私たちが学ぶことも多いです。年間十回のうち三回は男性介護者の交流会ですが、そこである男性介護者が女性もの下着やオムツの購入が分からない、オムツは燃えるゴミか分からないと言われた時には、はっとしました。男性介護者は、介護だけでなく家事も担うこともあり負担は更に大きくなると気づきました。また、認知症の病気になるた母親の介護を始めた方からは、母親だけの症状だと思っていたが認知症特有の行動だと分かりほっとしたとありました。病状について知っておくことで気持ち楽になるのだと思いました。

令和二年度も五月から翌年三月まで、月一回開催を予定します。ご都合の良い方は、ぜひ一度ご参加下さい。(野村)



「夢と希望を胸に羽ばたけ!!」

牛ヶ谷保育園

令和二年三月十四日、牛ヶ谷保育園第四十回卒園式が行われました。今年は、年長児十二人の子どもたちが、六箇所の小学校へと入学となりました。今年は感染症の件もあり、いつもとは少し違った式で、参列者も限定させていただく形となっていました。が、「一人ひとりが証書を受け取る姿」や「保育園生活で一番楽しかったことを具体的に発表している姿」に子どもたちの成長を感じ心から嬉しくなりました。また、子どもたちを保育園に毎日連れて来てくださったご両親の皆様へも「子育て証書」を授与させていただきました。おうちの方と一緒に手を繋いで花道を戻る後ろ姿に胸が熱くなっていました。

牛ヶ谷保育園では、多くの子どもたちが〇歳から入園し、保育期間が一番長い子は約六年間となります。保育園で過ごした時間の中で「人とかかわる力」と「相手を思いやる心」を十分につけてきた子どもたち。別々の小学校へ行ってもすぐに新しいお友達ができることでしょう。これからも「夢と希望」を胸に色々なことにどんどんチャレンジして欲しいと思います。また、これからも地域の子育て支援の拠点であるよう、精進して参りたいと思います。(菅)



「安全な食事に向けてー環境面の見直しー」

青嵐つくし園



つくし園のご利用者は高齢化・障害の重度化が進み、食事時の介助量の増加、食事による誤嚥のリスクが懸念されています。

ご利用者と視線を合わせる為に食事介助中、職員は中腰姿勢やテーブル越しで介助する事で腰痛のリスクも心配されておりました。誤嚥のリスクの要因として①職員が立ったまま食事介助を行っている事で、ご利用者の顔は職員と視線を合わせる為に上向きになってしまふ。②固定脚テーブルを使用している為、テーブルの高さが合わないご利用者は自力で食べる事が難しくなる等が挙げられます。そこで、安全に食事ができる環境作りと職員の腰痛予防の取り組みとして、平成三十年二月からリハ課、医務課と連携し、U字テーブルと昇降式テーブル、介助者用のイスを導入しました。介助中の決まり事として、ご利用者と視線が合うように必ずイスに座り、ご利用者の正面から食事介助を行う事にしました。

その結果、当初の課題が少しずつ改善され、ご利用者と職員から一定の評価を得ることができました。例えば職員からは「ご利用者と視線を合わせやすく、観察がしやすくなった。」「以前より楽な姿勢で介助する事ができるようになった。」「との意見が聞かれ、ご利用者からは「前より食べやすくなった。」「との意見が聞かれました。今後も課題意識を持ち生活上の支援を行い、ご利用者が安心・安全に過ごせる環境作りを目指して行きたいと思っています。

(西口)



芳香会活動報告

「第五回古河市

綱引大会に参加して」

二〇二〇年二月九日(日) 古河市主催第五回古河市綱引大会に参加をしてまいりました。

芳香会綱引同好会としては、男子選手権の部男女混合の部に各一チーム参加しました。大会前の練習では、他団体のチームよりお声掛けをいただきまして、合同練習を実施し、友好関係も徐々に築けてきています。

男子選手権の部に他県の全国大会に出場するチームも参加しており、勝つのは厳しい状況になってきています。しかしながら今大会において、一番の盛り上がりを見せた試合は、地元チームと芳香会男子チームの接戦であり、会場中から声援をいただきました。約二分間全力で綱を引いた選手は疲労困憊の様子でしたが、相手側から「すごく楽しい試合だった。」「やられるかと思った。危なかった。」等労いの言葉をいただき、「強くなりたい人は練習に参加し



にきてね。」とお誘いもいただきました。男女混合の部で三位入賞という結果をいただきましたが、地元の方々との交流も実感できた大会となりました。(知久)



芳香会スケジュール

二〇二〇年

五月	七日	法人内ヒアリング
五月	九日	監事 決算・事業報告ヒアリング
五月	十六日	評議員選任・解任委員会
五月	二十八日	理事会
六月	六日	六月一日付本採用辞令交付式
六月	十一日	定時評議員会
六月	二十六日	長期在職者研修
六月	二〇二〇年度	雇用障害者研修旅行

編集後記

三月末に珍しく雪が降りました。桜の花満開での珍妙な景色。今後もこのようなアンバランスな季節や風景と出会う事を覚悟し、生きて行くことが必要なのだろうと改めて自分に言い聞かせました。それでも、次年度に向けての準備不足が生じないよう数字と文字とのにらめっここの毎日です。

(光)

三月十四日に、山手線としては四十九年ぶりの新駅、「高輪ゲートウェイ駅」が開業したそうです。建物は和をイメージとした造りになっており、中には警備ロボットや清掃ロボットも試行導入されているようです。機会があれば駅を利用してみたいですね。

(剛)

今月号から会報作成委員会の一員となりました芳香会法人本部事務局の吉金麻衣子です。皆さまが毎号楽しみにしていただけのような会報誌を作成していければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。(麻)



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027 (代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。